
ファイアーエムブレムGBA版のキャラを使って、白雪姫の話を書いてみた。

のりりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファイアーエムブレムGBA版のキャラを使って、白雪姫の話を書いてみた。

【Nコード】

N2521T

【作者名】

のりりん

【あらすじ】

ファイアーエムブレムGBA版のキャラクターを使って、白雪姫の話を書いてみました。魔力の成長率が優秀なリリーナ姫にルーテ女王が嫉妬している話です。※キャラ崩壊（特にルーテ）の恐れが、かなりあります。ルーテを心の底から愛している人やキャラ崩壊が苦手な人は読まない方がいいです。

（前書き）

白雪姫…リリーナ（F E 封印の剣）

産みの母親…フロリーナ（F E 烈火の剣）

実の父親…ヘクトル（F E 烈火の剣）

お妃…ルーテ（F E 聖魔の光石）

お妃の家来…カイル（F E 聖魔の光石）

7人の子人

…ルウ、レイ、チャド（F E 封印の剣）

エルク、マシユー、ルセア（F E 烈火の剣）

アスレイ（F E 聖魔の光石）

王子…ロイ（F E 封印の剣）

という役が設定されています。

では、どうぞ。

※ルーテが好きな人は観覧注意です。

昔、あるところにリリーナ姫という優秀な女の子がいた。

リリーナ姫は優しい母親のフロリーナに大切に育てられて、美しく成長した。

しかし、母親のフロリーナは突然急病を起こし、亡くなってしまった。

リリーナ姫「お母様……。 (涙)」

泣いているリリーナ姫のためにヘクトル王は新しいお妃を迎えた。

しかし、新しいお妃はとても恐ろしい魔女だった。

ルーテ女王というお妃は鏡に向かって訪ねた。

ルーテ女王「鏡よ鏡、世界で1番優秀なのは誰ですか？」

すると、鏡の精は正直にこう答えた。

鏡の精「それは、リリーナ姫です。」

ルーテ女王「何ですって？ 私より優秀な

人がいるなんて許しません。」

怒ったルーテ女王は家来の狩人カイルに残酷な命令をした。

ルーテ女王

「リリーナ姫を森で殺して来て下さい。」

狩人のカイルはリリーナ姫を森に連れて行った。……が、あまりにも可愛いリリーナ姫を殺せなかった。

カイル「やっぱり、俺にはこんなことをすることは出来ない。リリーナ姫、ここから遠くへ逃げて下さい。」

リリーナ姫「どうして……です？」

カイル「理由は言えません。いいから早く逃げて下さい。」

リリーナ姫「分かりました。」

狩人のカイルは城に戻っていった。

森の奥深くへ進む、リリーナ姫……、

リリーナ姫「ここは、どこかしら？」

しばらくすると、小さな家があった。

家に近づくと、ドアをノックし、

リリーナ姫

「ごめん下さい。誰かいませんか？」

しかし、誰も出なかった。

なので、黙って中に入ると、

リリーナ姫「ここ、凄い汚れているわ。」

リリーナ姫は掃除を始めた。

そして、家の中がピカピカになると
疲れたリリーナ姫はベットで寝て
しまった。

仕事が終わった7人の子人は家に帰った。

家に着くと、子人達は中がきれいになっているのを見てびっくりした。

ルウ「あれ？家の中がきれいだよ。」

エルク「誰が掃除したのかな？」

レイ「オバケがやったんだろ？」

と言うと、レイとチャドとマシュー以外はビビりだした。

チャド「おい！レイ。」

そんなこと言うんじゃないよ。」

マシュー

「隈無く探せばいいんじゃないか？」

アスレイ「そうですよ。」

ルセア「みんなで探しましょう。」

こうして子人達は家の中を隈無く探した。
子人達はどうとうベットで寝ている
リリーナ姫を見つけた。

ルセア「みんな、見て下さい。

誰かが寝ていますよ。」

ルウ「ホントだ。でも、可愛い姫だね。」

レイ

「全く、図々しいったらありやしない。」

と言っていると、リリーナ姫は目を
覚ました。

リリーナ姫

「ふぁー、よく寝た。って、あーっ！！
ごめんなさい！！私、今出て行きます。」

と慌てて出て行こうとしたら、

エルク「ちょっと待って。」

エルクが止めた。

アスレイはリリーナ姫にこう質問をした。

アスレイ

「家の中を掃除したのはあなたですか？」

リリーナ姫「ええ。」

マシュー「ほら見ろ！！」

オバケがするわけねえだろ！！」

レイ「そうだったな……。」

今度はチャドがリリーナ姫にこう質問をした。

チャド「で、あんた（リリーナ姫）はどうしたんだ？」

と聞くと、リリーナ姫は今までのことを子人達に言った。

リリーナ姫「私は、産んでくれたお母様を失い、ルーテ女王に追いつけず森を

歩いてたら偶然、ここに来たの。

だから、私はもうあの城には帰れない。」

と言うと、リリーナ姫は泣いてしまった。

エルク「そういうことがあったんだね。
それなら僕達と一緒に、ここにいれば
いいよ。みんなもいいよね？」

ルセア「私は勿論、いいですよ。」

アスレイ「私も同意です。」

マシュー「だから、泣くなって。チャド、ルウ、レイ、お前等も同意するだろ？」

ルウ「僕もいいよ。」

チャド「俺も構わない。」

レイ「好きにいるがいい。」

リリーナ姫「皆さん、ありがとう。料理が得意なので、作って欲しい物があったら
何でも言ってね。私はリリーナ姫です。」

ルウ「僕はルウ。」

レイ「俺はレイ。」

エルク「僕はエルク。」

チャド「俺はチャドだ。」

マシュー「俺はマシューだ。」

ルセア「私はルセアです。」

アスレイ「私はアスレイです。」

こうしてリリーナ姫は家事の仕事をしながら七人の子人達と一緒に暮らした。

一方、ルーテ女王はまた鏡に向かってこう言った。

ルーテ女王「鏡よ鏡、世界で1番優秀なのは私でしょう？」

鏡の精はまたこう答えた。

鏡の精「いいえ、違います。世界で1番優秀なのは森で7人の子人と暮らしているリリーナ姫です。」

ルーテ女王はまた激怒し、

ルーテ女王「カイルウウウ、私の命令に背きましたね。(怒)」

と地下に行くと、毒液を作り、リングに毒を塗った。

ルーテ女王「私がじかに行って、

毒リングをリリーナ姫に食べさせるまでです。優秀は私だけで十分です。」

と魔法で醜いリング売りに変装すると、リリーナ姫のところへ向かった。

一方、リリーナ姫は、

マシュー「じゃ、俺達は宝石を掘りに行くから、誰か来ても絶対に出るなよ。」

ルウ

「リリーナ姫、元気で留守番しててね。」

チャド「不審者には気を付けろよ。」

エルク「僕達はちょっと遅くなるかもしれないけど、」

ルセア「何かして過ごして下さい。」

レイ「今日はどんな宝石が手に入るんだろう？楽しみだな。」

アスレイ「では、行ってきますよ。」

と言うと子人達は出かけて行った。

リリーナ姫「行ってらっしゃーい。」

と見送った。

しばらく時間が経ち、ルーテ女王が
リリーナ姫のいる子人達の家に着くと、
窓を叩いて、リリーナ姫に声をかけた。

ルーテ女王「賢くて、可愛らしいお姫様。美味しいリンゴを食べません？」

リリーナ姫

「どなた？私、他の子人達に出たら
いけないと言われて、出れないの。」

リリーナ姫は反抗するが、

ルーテ女王「私はどうしても、あなたに
食べて欲しいリンゴがあるので。」

だから、警戒しないで下さい。これを
食べると賢くなったり、さらに美しく
なりますよ。」

と言うと、リリーナ姫は、

リリーナ姫「ホントなの？
じゃ、試しに食べてみるわ。」

と、毒入りだと気付かず食べてしまった。次の瞬間、リリーナ姫は
毒が回り、

リリーナ姫「ううつ、あああああ。」

と、床にバタンツと倒れてしまった。

ルーテ女王「大成功です!!」

これで私が1番、優秀なのですから。」

と、喜んで城に戻っていった。

夕方、宝石をたくさん集めた子人達は家に帰って来た。

家に着くと、倒れているリリーナ姫を見つけた子人達は慌てた。

ルウ「あつ、リリーナ姫。」

チャド「大丈夫か?」

マシュー「しっかりしろ!!」

エルク「リリーナ姫の手に持ってる
リング……、まさか!!」

レイ「リリーナ姫は毒入りのリングを
食べたんだな。」

ルセア「そんな……。 (涙)」

アスレイ

「食べさせた人……、酷すぎます。」

と口々に言い、子人達はリリーナ姫を棺の中に入れ、ずっと泣いていた。

すると、馬に乗ったロイ王子が通りかかった。

ロイ王子「君達、どうしたんだ？」

マシュー「俺達の大切なリリーナ姫が、倒れちゃったんだ。」

と言うと、ロイ王子は、

ロイ王子「どれどれ……、僕にも見せてくれないか？」

と、子人達はロイ王子に棺に入ったリリーナ姫を見せた。ロイ王子は一目でリリーナ姫を好きになった。

ロイ王子は棺のふたを開けると……、

ロイ王子「生きていれば結婚したかったけど、生きてないんじゃないね。別れのキスをしよう。」

ロイ王子がキスをする、リリーナ姫の口から毒リングの欠片が出てきた。

リリーナ姫「うーん……。あれっ、私

確かリンゴを食べて……。」

ルウ「あつ、リリーナ姫が目を開いた。」

エルク「良かった……。」

レイ「生き返ったのは奇跡だな。」

マシュー「つたく、心配したんだぞ!!」

チャド「とにかくよかったじゃねえか。」

ルセア「きっと、神様が救って下さったのですよ。」

アスレイはリリーナ姫に質問をした。

アスレイ「ところでリリーナ姫、これからあなたはどうしますか？」

リリーナ姫「私は……、うゝん……?」

と考えると、ロイ王子はリリーナ姫にお願いした。

ロイ王子「リリーナ姫、僕と結婚してくれないかな?僕は君が大好きだ!!」

と言うと、リリーナ姫もロイ王子が好きになった。

リリーナ姫「私もロイ王子が大好きよ。結婚しよう。」

と言った。

ロイ王子はリリーナ姫を馬に乗せ、
子人達が別れの一言を言った。

ルウ「リリーナ姫とはさよならだね。」

エルク「もっと一緒にいたかったなあ。」

チャド「まあ、リリーナ姫が幸せに
なれたらそれでいいんじゃないか。」

マシュー「そうだな。」

リリーナ姫、元気でいろよな。」

ルセア

「私達のこと、忘れないで下さい。」

アスレイ

「また、どこかで会いましょうね。」

レイ「リリーナ姫……、またな!!」

リリーナ姫「皆さん、いろいろと
ホントにありがとう。さようなら。」

と別れを告げると、リリーナ姫と
ロイ王子は隣の国に行った。

一方、ルーテ女王はまたまた鏡に向かってこう言った。

ルーテ女王「鏡よ鏡、もうリリーナ姫は生きていません。今度こそ、世界で1番優秀なのは私でしょう？」

鏡の精はこう答えた。

鏡の精「違います。リリーナ姫は生き返って、ロイ王子と隣の国に住んでいます。リリーナ姫が1番優秀です。」

ルーテ女王は鏡の精の答えに怒りだし、

ルーテ女王

「あなたは嘘つきです。毒リンゴを食べさせたから、生き返らないはずです。嘘を言った罰としてあなたを割ります。」

鏡の精「ルーテ女王様、やめて下さい。」

と止めるが、ルーテ女王はハンマーで鏡を割った。そうすると、破片が心臓に突き刺さり、

ルーテ女王「痛いです。うわああああ。」

バタンツと死んでしまった。

こうして、リリーナ姫はロイ王子と結婚をして、幸せに暮らしたとき。

めでたし、めでたし。

(後書き)

しよゝもなかったですか？

感想を書いてくれたらありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2521t/>

ファイアーエムブレムGBA版のキャラを使って、白雪姫の話を書いてみた。

2011年11月14日21時34分発行